



Title	モザンビークの2018年全国市議会選挙と2019年総選挙の比較考察
Author(s)	鳥越, 慎太郎
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2024, 35, p. 265-284
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95333
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

モザンビークの2018年全国市議会選挙と2019年総選挙の比較考察

Quantitative Comparison of the 2018 Municipal Elections and 2019 General Elections in Mozambique

鳥越 慎太郎*

TORIGOE Shintaro

1. はじめに¹⁾

本稿はモザンビーク共和国で2018年に実施された全国市議会選挙と2019年に実施された大統領・共和国議会・全国州知事・州議会選挙(以降「総選挙」)の結果を詳細な数値から分析、考察するものである。

2018年の全国市議会選挙では、全53選挙区(特別区)のうち与党フレリモが44区、野党のレナモとMDMがそれぞれ8区と1区を制する結果となった。結果としてはフレリモの圧勝であるが、43.5%の票を得て過去最高の勝利数を収めたレナモにとっても躍進したと言えるものであった。さらに、フレリモが僅差でレナモを破っている選挙区では、選挙管理委員会(STAE-CNE)や警察が投票箱を不正に持ち逃げしたり、開票の最終盤でフレリモが不自然にレナモを逆転したりする事例があったため、実際はレナモが勝利していた選挙区がさらに数区あったのではないかとされる。

一方、その1年後の2019年に行われた総選挙では、これまでレナモの地盤であった北部州を含めた全国でフレリモが完勝を納め、得票でも圧倒した。レナモが躍進しフレリモに疑惑の目が向けられた2018年選挙からわずか1年間での完勝は、ニュシ政権の成果を考慮しても「出来すぎ」な印象を受ける。

この2選挙の得票数を精緻に分析した研究や記事は2023年現在確認できない²⁾。そこで本稿では、モザンビークにおけるこれまでの選挙結果をまとめつつ、2018年選挙と2019年選挙での両

* 大阪大学大学院人文学研究科助教 (Graduate School of Humanities, Osaka University)

¹⁾ 本稿は2020年6月に在モザンビーク日本国大使館に提出した専門調査員報告書を修正したものである。本稿中で引用する2018年及び2019年の両選挙の得票データは、2023年現在モザンビークの選挙管理委員会のサイトからアクセスすることができなくなっているが、同報告書の作成当時は公表されており、このデータに基づいて作成された同報告書が在モザンビーク日本国大使(当時)の決裁を得ていることで信頼性を担保することとする。なお、本稿の内容は日本政府の立場を代表するものではなく、筆者個人の調査によるものであり、その責任は筆者が負うものである。

²⁾ 両選挙に関する研究事例では、2018年を含むマトラ市議会選挙における投票棄権問題に関する考察(Baloi 2019)、2019年選挙における民放STVの選挙報道の公平性に対する分析(Luabo 2023)、2019年選挙関係者へのインタビューを通じた不正の調査(Rosário & Guambe 2024)が確認できる。

党の得票数を詳細に比較して検証し改めて問題提起をしていく。両選挙で直接比較できるのは、2019 年全国州議会選挙結果のうちの 2018 年選挙と重複する特別区であり、本報告書ではこれに着目する。

2. モザンビークの政党

まず、本節では 2023 年時点でのモザンビークの主要政党、フレリモ、レナモ、MDM について、その成り立ちと特徴、評価を概観していく。

2.1. モザンビーク解放戦線 (フレリモ)

モザンビーク解放戦線(葡: *Frente da Libertação de Moçambique: FRELIMO*、以下「フレリモ」)はポルトガル植民地政府に対する解放闘争を行った武装集団が前身であり、1962 年に結成され、1975 年の独立後は一貫して政権を担っている。解放闘争時や独立直後にソ連や中国から支援を受けてきた影響で、現在でも旧東側諸国と関係が深い。

独立後のサモラ・マシエル初代大統領による社会主義国家を目指した国作りは、人材の不足や自然災害、さらには独立直後から続いたレナモとの内戦の影響で混迷した。マシエルの後を継いだジョアキン・シサノ第 2 代大統領は市場開放と親西側路線への路線変更、そして複数政党制を導入し、1992 年にはレナモとの和平に合意して内戦を終結させた。1990 年代から 2000 年代にかけては、西側資本を積極的に呼び込んだシサノ政権から後継のアルマンド・ゲブーザ政権まで、モザンビークは常に 10%前後の高い経済成長率を維持してきた。2023 年現在現職のフィリップ・ニュシ政権では、レナモとの対話による地方分権の推進や、全国に電力や病院の整備、さらに外国資本のさらなる誘致のためのビジネス環境の改善に取り組むことを公約としている。

解放闘争の「英雄」であるフレリモだが、解放闘争時から内部権力闘争があり(船田 2007, Chichava 2010)、南部出身者が北部や中部の前身組織のリーダーを放逐した結果、今日の北部や中部における野党支持に影響しているという見方がある(cf. 水谷 2017, 123)。

2.2. モザンビーク民族抵抗運動 (レナモ)

モザンビーク民族抵抗運動(葡: *Resistência Nacional de Moçambique: RENAMO*、以下「レナモ」)はフレリモによる黒人国家及び社会主義国家樹立を妨害するために、隣国南ローデシア政府やポルトガル秘密警察の残党などが主導して結成された武装集団を前身とする。実動部隊は主にフレリモの内部抗争で敗れた北部・中部出身者とされ、1979 年に議長に就任したアフォンソ・

ドラカマは高いカリスマ性をもって内戦を指揮した。南ローデシアの崩壊後はアパルトヘイト下の南アフリカ共和国や、アフリカでの社会主義陣営の台頭を警戒する西側諸国からの支援を得て、当初は学校や病院などの公共施設や交通インフラを標的とし、その後、村落への残虐な攻撃、略奪や少年の誘拐を繰り返した(船田 2007, 15)。

1980 年代後半からは政党となり、1994 年の第 1 回総選挙以降、ほぼ一貫して最大野党としての地位にある。内戦時代に支援を受けてきた歴史から西側諸国とは現在でも関係が強く、社会主義的、中央集権的性格の強いフレリモに対し、民主主義や地方分権を訴える政党となっている。1994 年の大統領選挙では、ドラカマは現職のシサノ大統領に敗れたものの肉薄し、レナモが想像以上の支持を得ていたことから、「残虐なテロリスト」³⁾から「国民の支持を得る政党」として国際社会からも評価を得るようになった(船田 2007, 25)。

2018 年 5 月にドラカマが急死し、長年の課題であった後継者問題が噴出したが、同年に実施された第 5 回全国市議会選挙を指揮したオスッフォ・モマーデが新党首に選出された。モマーデは基本的にはフレリモとの対立路線を継承したが、1992 年の和平以降の課題であったレナモ兵の武装解除・動員解除・社会復帰 (*desarmamento, desmobilização e reintegração: DDR*) についてはニュシ大統領と強調して成功させた。

2.3. モザンビーク民主主義運動 (MDM)

モザンビーク民主主義運動 (*Movimento Democrático de Moçambique: MDM*) はウリーア・シマンゴ元フレリモ副書記長の子息で、元レナモ党員のデーヴィス・シマンゴが設立した政党である。シマンゴは 2003 年にレナモから擁立されて、父のお膝元であるソファアラ州都のベイラ市長選挙に出馬し、当選した。2008 年の選挙でも再選を狙ったが、シマンゴの影響力により自身の立場が脅かされることを恐れたドラカマ党首に擁立を拒否された。そこでシマンゴは独自政党である MDM を立ち上げて出馬し、フレリモとレナモを敵に回す状況で 61% の得票率で再選を果たした。MDM はベイラ市政において、特に若者への支援対策を目玉とし、都市部の若者層の支持を取り付けた。

レナモがボイコットした 2009 年の共和国議会選挙では 8 議席を獲得し、2013 年の全国市議会選挙ではベイラ市のほか、ナンプラ州ナンプラ市、ザンベジア州ケリマネ市の 3 州都を含む 4 市町で勝利した。続く 2014 年の共和国議会選挙でも、レナモが参加する中で議席を 17 に伸ばした。しかし、2018 年の全国市議会選挙、2019 年の総選挙ではフレリモ、レナモに大敗した。さ

³⁾ 和平以降の「賊」としての評価はフレリモによる熱心な対外プロパガンダによるものであるという見方もある (2018 年 10 月 19 日付けサヴァナ紙 2 面)

らに、2021年2月にシマンゴが急死し⁴⁾、党運営は兄のルテロー・シマンゴが引き継いだ。

MDMはフレリモによる実質的な一党独裁状態を防ぐとともに、フレリモとレナモの二局状態を打開して多党制民主主義の選択肢を増やすこと、政策を持った政党であることを党是としている(Chichava 2010)。一方、シマンゴ兄弟に権力が集中して対抗する人材の台頭を許さない党運営は、レナモにおけるドラカマと同じであるという批判(ibid)や、国政で政策のないMDMはシマンゴの私的な地方政党に過ぎないという厳しい評価もある⁵⁾。

3. モザンビーク選挙史概観

モザンビークでは2019年までに総選挙が6回(1994, 1999, 2004, 2009, 2014, 2019)、全国市議会選挙が5回(1998, 2003, 2008, 2013, 2018)⁶⁾、それぞれ実施されているが、本節では2018年以前にモザンビークで実施された選挙の結果を概観していく。以降、総選挙、全国市議会選挙の順に見ていく。

3.1. 総選挙

総選挙を構成する大統領選挙及び共和国議会選挙は1994年の第1回選挙以降、2019年までに6回行われている。大統領選挙は有権者が候補者に直接投票する。第3回まではフレリモとレナモの対決、第4回以降はMDMなどの政党からの候補も立候補しており、2014年の第5回まですべてフレリモの候補が勝利している。

共和国議会選挙は比例代表制で、国民は政党に投票し、各政党は得票率に従って議席を配分される。各政党は各州の候補者リストを選挙管理委員会に提出し、候補順位に従って議席が割り振られた人数が当選していく。同選挙も2014年の第5回までフレリモが第一党を守り続けている。一方、北部⁷⁾のザンベジア州と中部のソファアラ州は第5回までレナモが勝利しており、他の北部、中部の各州もカーボデルガード州を除いて両党が僅差で奪い合いを演じている(表1参照)。

⁴⁾ 新型コロナウイルスによる合併症が報じられているが、公式には詳細は不明とされる。

⁵⁾ 2018年10月19日付けサヴァナ紙2面。

⁶⁾ 2023年に第6回の全国市議会選挙が実施されているが、今回は対象としない。

⁷⁾ ニアッサ、カーボデルガード、ナンブラ、ザンベジアの4州が北部、ソファアラ、テテ、マニカの3州が中部、イニャンバネ、ガザ、マプトの3州及びマプト市が南部と、それぞれ定義される。

表 1 共和国議会選挙の州別議席数 (1994-2014)

州	1994		1999		2004		2014	
	フレリ モ	レナモ	フレリ モ	レナモ	フレリ モ	レナモ	フレリ モ	レナモ
マプト市	17	1	14	2	14	2	11	3
マプト州	12	1	12	1	12	1	12	3
ガザ州	15	0	16	0	17	0	14	0
イニャンバネ州	13	3	13	4	15	1	12	2
ソファアラ州	3	18	4	17	6	16	8	10
マニカ州	4	9	5	10	7	7	8	8
テテ州	5	9	8	10	14	4	11	10
ザンベジア州	18	29	15	34	19	29	18	22
ナンブラ州	20	32	24	26	27	23	22	22
カーボデルガード州	15	6	16	6	18	4	19	3
ニアッサ州	7	4	6	7	9	3	7	6
国外 (アフリカ)					1		1	0
その他国外					1		1	0
合計	129	112	133	117	160	90	144	89

1994 年と 1999 年は船田 (2007, p.26)、2004 年は Carter Center (2005, p.66)、2014 年は EISA (2014) を参照した。なお、2009 年の詳細は入手できていない。

2009 年の第 4 回からは全国州議会選挙も同時に行われることとなった。同選挙も共和国議会選挙と同様の比例代表制を採用する。さらに第 6 回からは全国州知事選挙も兼ねることとなった。州知事は、州議会選挙で第一党となった政党から提出された候補者リストの第 1 位候補が選出される。以下の表 2 は 2014 年の第 5 回総選挙における全国州議会選挙の州ごとの議席数である。こちらも南部各州でフレリモが圧倒し、中部ソファアラ州と北部ザンベジア州でレナモが優勢、その他の北部、中部各州では接戦となっている。

表 2 2014 年全国州議会選挙の州別議席数 (Centro de Integridade Pública 2014)

	フレリモ	MDM	レナモ
マプト州	59	9	12
ガザ州	69	1	
イニャンバネ州	59		11
ソファアラ州	29	7	46
マニカ州	40	1	39
テテ州	35	3	44
ザンベジア州	37	4	51
ナンブラ州	47	1	45
カーボデルガード州	68	1	13
ニアッサ州	42	4	34
合計	485 (59.8%)	31 (3.8%)	295 (36.4%)

3.2. 全国市長・市議会選挙

全国市長・市議会選挙は市 (Cidade) と町 (Vila) からなる特別行政区 (Município / Autarquia⁸⁾) の議会議員と首長を選出する選挙で、1998 年に第 1 回選挙が行われ、以降 2020 年までに 5 回行われている。第 4 回選挙までは直接制の市長選挙と比例代表制の市議会選挙の二本立てであったが、2018 年の第 5 回選挙からは市長選挙と市議会選挙が一本化され、第一党となった政党から提出された候補者リストの第 1 位候補が選出されるようになり、2019 年の全国州知事選挙に先駆ける形となった。

1998 年に行われた第 1 回の全国市議会選挙では、レナモをはじめとする野党が有権者登録数への不信のため、全国 33 選挙区のうち 27 選挙区をボイコットしたことにより、フレリモが自動的に勝利し、残る 6 選挙区⁹⁾でもフレリモがすべて勝利した。投票率は 15% と非常に低かった (Nuvunga 2012)。

2003 年の第 2 回選挙では市長選挙ではベイラ市をはじめとする 5 選挙区¹⁰⁾で、市議会選挙では 4 選挙区¹¹⁾でレナモが勝利し、史上初めてフレリモ以外の政党が地方政治の指揮を執ることとなる、歴史的な選挙となった。投票率は 28% であった。

2008 年に行われた第 3 回選挙では、前回選挙以降に 10 の町 (Vila) が特別区 (Município) に昇格し、新たに選挙区となった。結果は、ベイラ市長選をシマンゴ MDM 党首が制した以外はフレリモが勝利し、市議会選挙も全区でフレリモが過半数を得る完勝を納めた (Osório & Macuacua 2014)¹²⁾。

2013 年の第 4 回選挙ではさらに選挙区が 10 区増え、全 53 区で争われた。同選挙ではレナモがフレリモによる選挙不正疑惑やドラカマ党首への暗殺未遂などからボイコットし、フレリモと MDM の対決となった。結果、ベイラ市、ケリマネ市、ナンプラ市を除く 50 市町でフレリモが勝利した。なお、ソファアラ州マロメウ町、ザンベジア州アルトモロクエ町、グルエ市、モクバ市では、得票率差 5% ほどの大接戦となった。一方、MDM はレナモの地盤であるナンプラ州ではフレリモに差をつけられている。

⁸⁾ 2018 年の第 5 回選挙前に名称を変更した。機能は改称前と変わらない。

⁹⁾ マプト市、マプト州マトラ市、マニッサ町、ガザ州シャイシャイ市、ソファアラ州ベイラ市、ナンプラ州ナカラポルト市 (Osório & Macuacua 2014)。

¹⁰⁾ 他にナンプラ州アンゴシェ市、ナカラポルト市、モザンビーク島市、ソファアラ州マロメウ町 (ibid)。

¹¹⁾ ベイラ市、ナンプラ州アンゴシェ市、ナカラポルト市、モザンビーク島市。なお、マロメウ町、カーボデルガード州モシンボアダプリア町、ナンプラ州モナボ町は 3% 差以内の僅差であった (ibid)。

¹²⁾ なお、選挙の後、フレリモはペンバ市、ケリマネ市、リシंगा市の市長を解任したため議会が解散し、2011 年 12 月に再選挙を行った。結果、ケリマネ市を MDM が制した (Nuvunga 2012)。

3.3. まとめ

以上のように、1994 年以降総選挙、全国市議会選挙ともに、南部ではフレリモが圧勝している一方で、北部のザンベジア州や中部のソファラ州ではレナモが優勢であり、ソファラ州都のベイラ市ではお膝元の MDM が圧倒的に支持を得ている。その他の北部及び中部の各州ではフレリモとレナモが均衡し、議席を奪い合っている。以上を踏まえて、以下、2018 年全国市議会選挙及び 2019 年総選挙の票の動きを見ていく。

4. 第 5 回全国市議会選挙 (2018 年)

4.1. 背景

第 5 回全国市議会選挙は 2018 年 10 月 10 日に行われた。前述のとおり、同選挙から市長選挙と市議会選挙が一本化され、政党に投票する比例代表制で、第一党の第 1 候補者が行政長となる。本選挙はフレリモ・ニュシ政権にとっては翌 2019 年の大統領選挙への前哨戦となり、非開示債務問題¹³⁾などのスキャンダルを抱えているものの、フレリモの安泰ぶりを見せつけるべき選挙であった。一方、2018 年 5 月にドラカマ党首が急死したレナモにとっては、リーダー不在の中厳しい選挙戦が予想され、MDM にとっては再び躍進する機会として期待された。

4.2. 結果

選挙管理委員会の発表に基づき、各特別区得票数を集計した(付録 1 参照)¹⁴⁾。フレリモは全 53 選挙区のうち 44 区で第一党となった。レナモはナンプラ州を中心に 8 選挙区、MDM はソファラ州ベイラ市の 1 選挙区に止まった。投票率は 60.3%とされている¹⁵⁾。

なお、党別の得票及び有効投票得票率を見ると、フレリモが 57.9%、レナモが 43.5%、MDM が 9.5%¹⁶⁾であり、フレリモの勝利選挙区数と比較してレナモの得票率は高い。また、地域別の得票数を見ると北部 4 州ではレナモがフレリモを上回っており、中部 3 州ではフレリモが優勢であるものの過半数を得ていない。他方、南部では約 30 万票差のダブルスコアで完勝しており、この得票差がそのまま全国の得票差となっている(表 3 参照)。

¹³⁾ 2013 年から 2014 年にかけて、ゲブーザ政権がクレディスイスや露 VTB 銀行から漁業や沿岸警備に関連する国営企業(ペーパーカンパニー)あてに、総額 20 億米ドルもの融資を議会を通さずに受け取っていた事件。ゲブーザ退任後の 2016 年に発覚し、結果的に公的債務が GDP 比 100%を超過するデフォルト状態として欧米諸国や国際機関からの ODA や直接投資が停止してしまった。

¹⁴⁾ 前述の通り 2023 年 8 月現在、選挙管理委員会のサイトから集計結果へのリンクがなくなっている。

¹⁵⁾ 2018 年 10 月 24 日付け DW 紙: <https://www.dw.com/pt-002/moçambique-cne-divulga-resultados-oficiais-das-autárquicas/a-46015325>

¹⁶⁾ いずれも筆者が 2019 年に選挙管理委員会のサイトから推計した。

表3 各党の地域別得票数 (STAE-CNE ウェブサイトから筆者集計)

	フレリモ	MDM	レナモ
北部4州	341,749	47,887	376,709
中部3州	248,008	94,582	179,494
南部4州	570,251	47,893	315,301
合計	1,160,008 (57.9%)	190,362 (9.5%)	871,504 (43.5%)

4.3. 僅差の選挙区と疑惑

マプト州マトラ市、ザンベジア州アルトモロクエ町、テテ州モアティーゼ町などでは開票終盤までレナモが優勢で、選挙後にレナモが勝利宣言を行った。しかし、選挙管理委員会はフレリモの勝利を発表した。僅差でフレリモが勝利した選挙区は以下の通り。

表4 僅差でフレリモが勝利した選挙区の詳細

	フレリモ	レナモ	差(有効投票中割合)	白票+無効票	フレリモ- [レナモ+白票無効票]
モンテプエス	13,641	11,577	7%	2,008	56
モナポ	9,579	9,363	1%	2,215	-1,999
リバウエ	4,870	4,436	4%	770	-306
アルトモロクエ	8,599	8,486	1%	969	-856
マガンジャダコスタ	5,732	4,541	11%	978	213
モクバ	16,419	14,965	4%	1,350	104
マロメウ	8,330	7,810	3%	1,402	-882
モアティーゼ	9,839	9,742	0%	2,073	-1,976
マトラ	137,875	135,678	1%	10,951	-8,756

なお、選挙中は北部を中心にいくつかの行政区の選挙所でレナモ支持者が入場を妨害されたという事案や、アルトモロクエ町などでは警察が投票箱を持ち逃げするという事案も報告されている。レナモは、マトラ市、アルトモロクエ町、モアティーゼ町、ソファアラ州マロメウ町、ナンプラ州モナポ町での結果に抗議し¹⁷⁾、このうちマロメウ町に関してはこれが認められ、選挙の約1か月後の11月22日に一部投票所のやり直し選挙が行われたが¹⁸⁾、最終的にフレリモが勝利している。また、11月26日にはカーボデルガード州モンテプエス市で選出されたレナモの議員が何者かに殺害される事件が発生した¹⁹⁾。

¹⁷⁾ 2018年10月20日付けオパイス紙 <http://opais.sapo.mz/renamo-reivindica-vitoria-em-cinco-autarquias>

¹⁸⁾ 2018年11月21日付けオパイス紙 <http://opais.sapo.mz/marromeu-cerca-de-seis-mil-eleitores-voltam-as-urnas-nesta-quinta-feira>

¹⁹⁾ 2018年12月2日付けオパイス紙 <http://opais.sapo.mz/delegado-da-renamo-pode-ter-sido-assassinado-pelo-grupo-que-o-espancou-nas-autarquias>

4.4. 評価

政府系新聞のノティシアス紙 (*Notícias*) や民間大手のオパイス紙 (*O País*) は 44 区を制したフレリモの圧勝を報じた。特にオパイス紙はピンによるマッピングにより、フレリモの大勝を視覚的に印象づけた。一方、その他の民間新聞は 8 区を制して躍進したレナモを評価し、さらにいくつかの選挙区におけるフレリモの疑惑の勝利を糾弾した。特に、インデペンデンテ紙 (*Magazine Independente*) は選挙管理委員会の中立性の欠如を批判した。ただし、12 月の元財務大臣の逮捕による非開示債務問題の加速と、翌 3 月に巨大サイクロン Idai が中部を襲ったため、本選挙結果の妥当性が長期的に議論されることはなかった。

フレリモは本選挙前、翌 2019 年の大統領選挙におけるニュシ大統領の再選は固いという見方であった。しかし、ノティシアス紙や国営放送 TVM などが醸成する選挙後の大勝ムードとは裏腹に、党内では本選挙の結果を受けて楽観主義が消え、大統領選挙は非常に厳しいと危機感を持ち、大統領や主要閣僚を積極的に北部に出張させるようになった。また、2019 年 6 月には停滞していたカーボデルガード州の天然ガス事業の最終投資決定や、レナモとの和平協定を三度結んで DDR を実行に移すなど、政策の進展を急いだ。

レナモのモマーデ新党首は、選挙後に和平交渉の破棄と再度の内戦を匂わせるなど強硬な態度を取り、一時国内情勢は緊迫した。EU などの各ドナーは、本選挙を「透明性をもって実施された」と評価したが、駐モザンビーク米国大使は、2018 年 12 月の離任の際に不透明な選挙運営を厳しく批判した。

5. 第 6 回総選挙

5.1. 背景

本選挙は大統領と共和国議会議員、全国州知事と州議会議員の 4 つの同時選挙であり、2019 年 10 月 15 日に行われた。前述のとおり、大統領は候補者に直接、共和国議会と州議会議員はそれぞれ政党に投票する比例代表制で、得票数で議席配分が決定され、州知事は各州で第一党となった政党の第 1 候補者が選出される。

同選挙では、従来中央政府による指名によって決定されてきた全国の州知事を、史上初めて直接選挙で選出する選挙となった。これはレナモとの長年の地方分権交渉にフレリモが応じたものである。しかし、フレリモは 2018 年に各州に国家の代表として地方行政に助言を行う「州国務長官 (*Secretário do Estado*)」を「政府機関の脱中央化」のために配置することを決定し

(Boletim da República 2018)、フレリモが敗北した場合でも影響力を保てる仕組みを維持した²⁰⁾。
これにより事実上、地方分権は骨抜きになっている。

5.2. 結果

憲法評議会の発表 (Conselho Constitucional 2019) に基づき、選挙結果を集計した。大統領選挙ではニュシ大統領が 73.5%と圧勝して再選された。他候補はモマーデ (レナモ) 21.5%、シマンゴ (MDM) 4.3%、マリオ・アルビーノ (AMUSI²¹⁾) 0.7%となった。

続いて、共和国議会選挙と全国州議会選挙の州別獲得議席数を表にまとめる。

表 5 2019 年共和国議会選挙と全国州議会選挙の州別獲得議席数

州	共和国議会選挙			全国州議会選挙		
	フレリモ	MDM	レナモ	フレリモ	MDM	レナモ
マプト市	8	1	4	-	-	-
マプト州	14	1	5	54		6
ガザ州	22			81		1
イニャンバネ州	11		2	61	2	18
ソファアラ州	14	2	4	60	8	13
マニカ州	13		4	63		17
テテ州	17		4	65		17
ザンベジア州	28	1	12	69		23
ナンプラ州	28	1	16	66		16
カーボデルガード州	9		6	63		31
ニアッサ州	9		4	46		14
国外 (アフリカ)	1					
その他国外	1					
合計	184	6	60	628	10	156

共和国議会選挙もフレリモが 70.8%を得票し、22.7%のレナモ、4.2%の MDM を圧倒した。また、州別、地域別でもフレリモが他を大きく引き離し、完勝している。これまでレナモが死守してきたザンベジア州や常に接戦を繰り広げてきたナンプラ州、テテ州、及び MDM の地盤であるベイラ市を擁するソファアラ州で倍の差を付けて完勝している。

²⁰⁾ 2020 年 1 月 29 日にアナ・コモアナ行政管理・公共機能大臣は、州国務長官が州知事のプロトコル上位であることを明言した。オパイース紙は 2020 年 2 月 5 日付け社説でこれを批判している。
(<http://opais.sapo.mz/nova-lei-de-descentralizacao-um-desafio-para-mocambique-continuacao>)。一方、ロケ・シルヴァ・フレリモ書記長は、選挙で選ばれた州知事に優先性があると主張している (2020 年 7 月 22 日付け Carta de Moçambique 紙: <https://cartamz.com/index.php/politica/item/5680-frelimo-da-prioridade-aos-governadores-provinciais-que-secretarios-de-estado>)

²¹⁾ Acção de Movimento Unido para Salvação Integral (統合的救済のための連合運動アクション)

全国州知事及び州議会選挙も、フレリモが全 10 州で第 1 党となり、全州知事がフレリモから選出された。得票率は共和国議会選挙と近似し、フレリモが 72.3%、レナモが 22.8%、MDM が 4.4%であった。州別得票数でも共和国議会と同じく、フレリモはこれまでレナモの牙城であったザンベジア州とソファラ州、また常に接戦を繰り広げてきたナンブラ州やマニカ州、ニアッサ州で 3 倍から 4 倍の議席を獲得して圧勝しており、歴史的な選挙結果になったといえる

5.3. 事件・疑惑

本選挙ではフレリモの票田の南部ガザ州で 2 つの大きなスキャンダルが発生している。1 つめは、有権者数問題である。選挙管理委員会発表のガザ州の有権者登録数 (約 117 万人) が、前年の国家統計院 (INE) 国勢調査の州有権者人口 (約 84 万人) を大きく上回るという事態が発生した。野党や独立系メディアはこれを一斉に批判したが、フレリモ及び選挙管理委員会はこれを問題なしとし、選挙を挙行した。なお、選挙管理委員会発表の有権者数を会見で「2040 年に達する見込みの数字」と評価した INE 総裁は更迭された²²⁾。

2 つめは、ガザ州の選挙監視委員を務めていた、NGO 代表のアナスタシオ・マタヴェールが複数名から襲撃、射殺されるという事件が発生した。襲撃にはガザ州政府の車両が用いられ、容疑者として警察幹部が逮捕された。

この他にも、野党の選挙集会が妨害される事案や、フレリモやレナモへの投票があらかじめマークされた投票用紙を複数所持する者が発覚する事件²³⁾、ニアッサ州²⁴⁾やザンベジア州²⁵⁾で投票終了後に投票箱や投票箱を輸送する車両がレナモ支持者に放火される事件など、憲法評議会の発表だけで 220 件の事件が発生している。Rosário & Guambe (2024) はこのような地方選挙機関における構造的な選挙不正について、関係者への聞き取りを通じて調査している。

5.4. 評価

政府系ノティシマス紙はレナモ支持者による不正行為や暴力行為を報じる²⁶⁾一方、選挙が模範的であったとの評価を示し、これを支持する EU 選挙監視団や SADC 選挙監視団、キリスト教会などの声明を報じた²⁷⁾。オパイス紙もノティシマス紙同様、選挙プロセスを肯定的に評価

²²⁾ 2019 年 8 月 24 日付け DW 紙 <https://www.dw.com/pt-002/mo%C3%A7ambique-titular-do-ine-demite-se-ap%C3%B3s-recenseamento-pol%C3%A9mico-em-gaza/a-50153003>

²³⁾ <https://www.cipeleicoes.org/apanhados-com-boletins-de-votos-pre-marcados-a-favor-da-frelimo/>

²⁴⁾ <https://www.cipeleicoes.org/assembleias-de-votos-e-urnas-incendiadas-no-niassa/>

²⁵⁾ <https://www.cipeleicoes.org/urnas-casas-e-salas-de-aulas-incendiadas-em-angoché/>

²⁶⁾ 2019 年 10 月 17 日付け 9 面

²⁷⁾ 2019 年 10 月 17 日付け 8 面、2019 年 10 月 18 日付け 1 面、9 面

する記事を掲載する一方、与野党両陣営が関連する事件にも言及している²⁸⁾。

EU や米国などのドナーは、本選挙を「透明性をもって実行された」と評価した。ただし、米国は一部の「暴力事件」や選挙監視団体の能力の低さへの懸念を表明した²⁹⁾。

6. 分析：両選挙における得票の比較と考察

第5回全国市議会選挙ではレナモが過去最高の選挙区を制したが、第6回総選挙では一転、フレリモがザンベジア州まで抑え、歴史的ともいえる完勝を収めた。大手メディアはニュシ大統領の2019年の政策の成果が要因と分析する傾向だったが、それでも出来過ぎな感が否めない。選挙結果のデータを精緻に眺めることで見える要素はないだろうか。そこで、本稿では両選挙の得票データの比較を行う。両選挙間で直接比較が可能なのは2018年選挙が行われた52の特別区における得票分布である。2019年選挙では、全国州議会選挙における52特別区を含む全国154郡での得票集計が公表されていたため、これを2018年選挙と比較していく。

6.1. 地域別得票の比較

52特別区の2018年選挙と2019年選挙の得票を地域別に比較すると、興味深い事実が浮き上がった。図1は両選挙における主要3党の北部4州、中部3州、南部4州での得票を視覚化したものである。2019年選挙ではフレリモが全国で大幅に得票数を伸ばしている一方、レナモとMDMの得票は、南部4州でレナモの得票が半減している以外はほとんど変わらない。むしろレナモは北部では微増している。

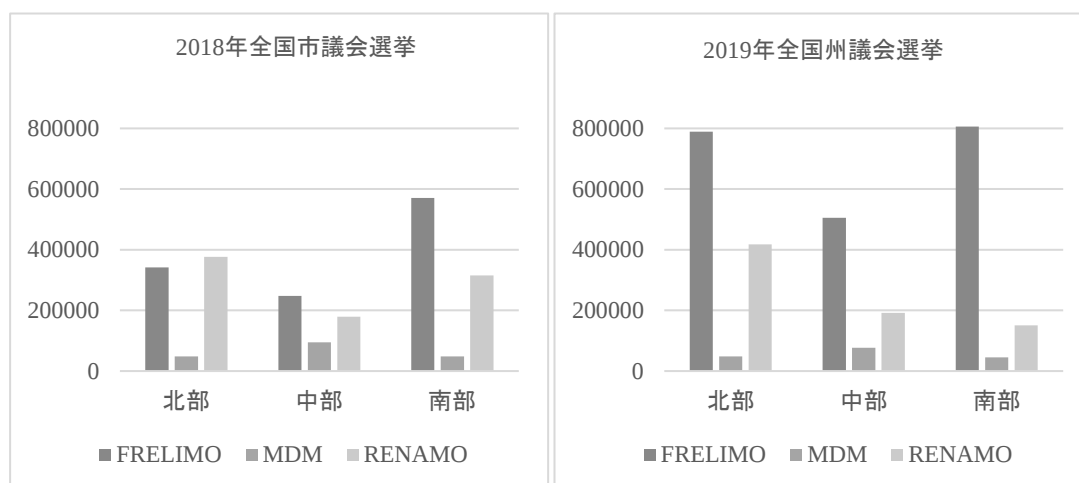


図1 2018年選挙と2019年選挙での各党の各地方における得票数

²⁸⁾ 2019年10月18日付け9面の社説(アデリーノ・ブツケ解説員)

²⁹⁾ 2019年10月21日付けオパイス紙5面

フレリモは 52 特別区だけで、北部 4 州で約 45 万人、中部で約 25 万人と倍増し、さらに南部で 20 万人の合計約 90 万人の得票を上積みしている。統計学的な感覚から考えると、1 年間で政策による極端な影響がないと仮定した場合、全体の母数 (投票者数) が増加する一方、一部の集団 (政党への投票) のみが増加しているのは不自然な印象を受ける。ただし、2018 年選挙の登録有権者数が約 391 万人であったのに対し、2017 年国勢調査における 53 特別区中 48 特別区の人口が約 1,431 万であったため、不可能な数字ではないとも考えられる。

続いて 2019 年選挙の結果を全国 154 選挙区と 52 特別区で比較する。2019 年は 52 特別区全区でフレリモが勝利しており、内容的にもナンプラ州ナカラポルト市でレナモと接戦となっている³⁰⁾のと、カーボデルガード州シウレ町で勝敗に影響するだけの白票・無効票数があった³¹⁾以外はフレリモが圧勝している。図 2 は全国の 52 特別区の得票数をそれぞれ棒グラフにして視覚化したものである。

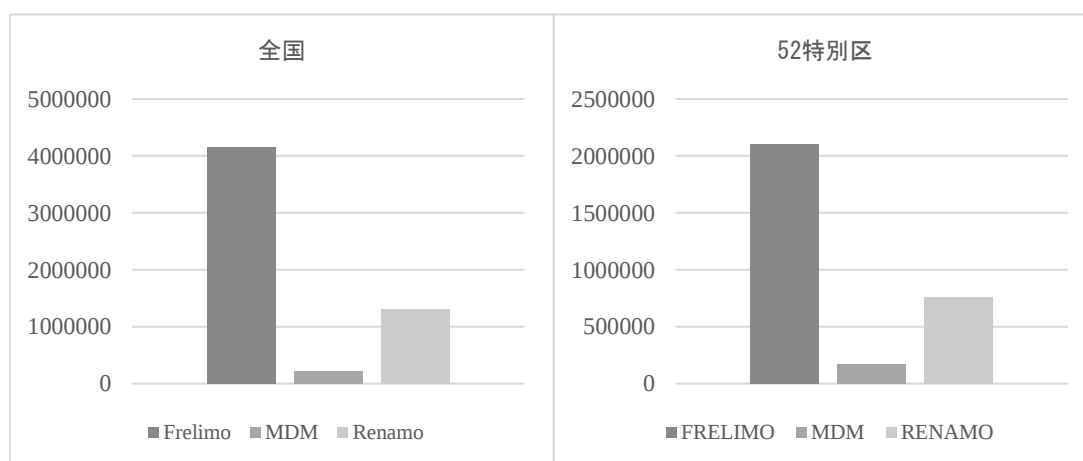


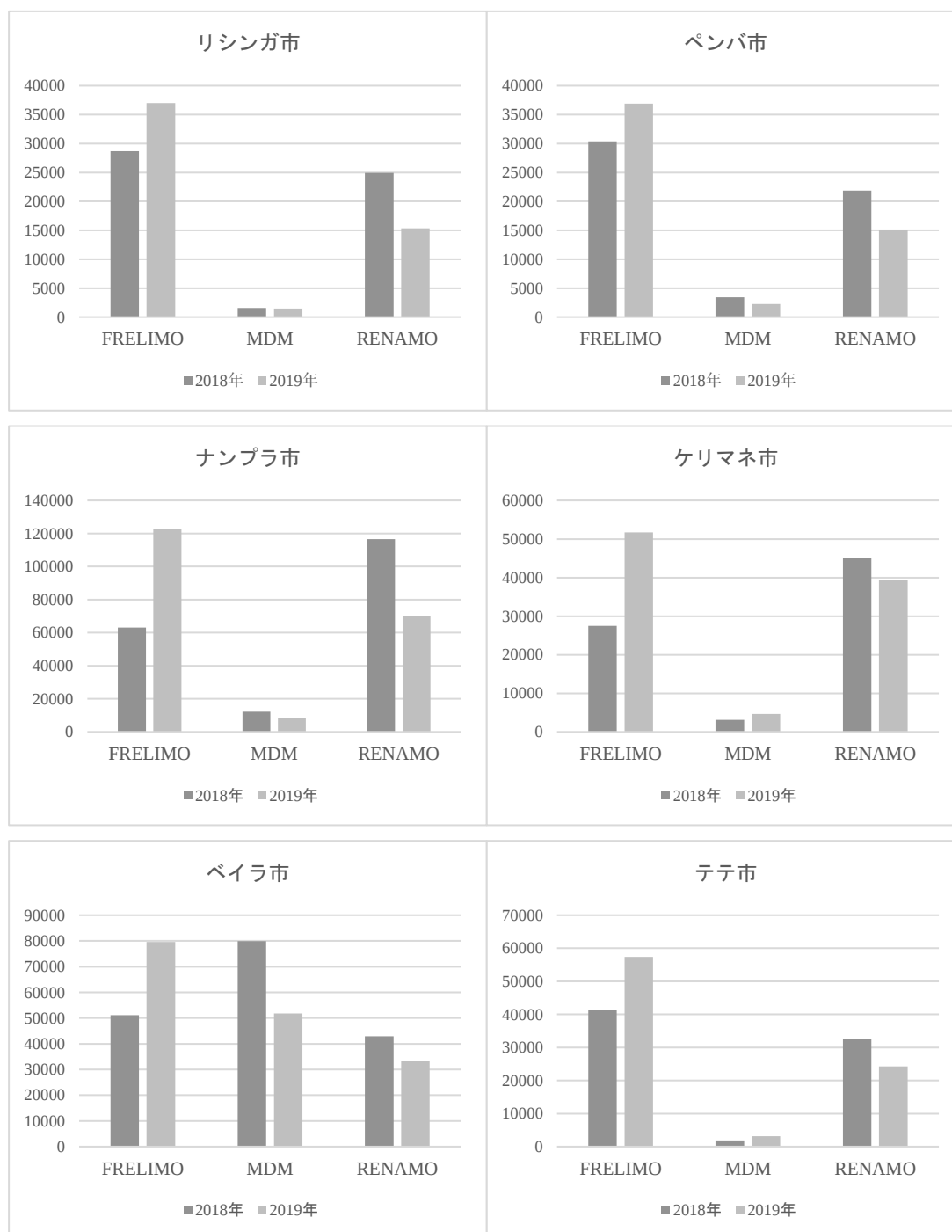
図 2 2019 年選挙における全国及び 52 特別区での各党の得票

まず、52 特別区で全国のほぼ半分をカバーしていることがわかる。また、全国 154 郡とそのうちの 52 特別区で投票の割合がほぼ同じとなっていることもわかる。これはすなわち、都市部と農村部で均質な得票傾向があることが示唆されている。この点も、統計学的な感覚から不自然さを感じる。すなわち、都市部に対する農村部の、かつ都市部の倍の小集団によって母集団がほぼ倍になりながら、割合がほとんど変化しないということは、モザンビーク国民の支持政党が全国的に均質でなければならない。

³⁰⁾ 投票数 80200 票で、フレリモが 36440 票、レナモが 35810 票をそれぞれ得票。

³¹⁾ 投票数 67505 票で、フレリモが 31022 票、レナモが 19899 票を得票する一方、白票・無効票が 13727 票あった。

さらに、両選挙での得票数を、フレリモの地盤である南部のイニャンバネ州とガザ州を除いた州都に限定して棒グラフで視覚化する(図3)。



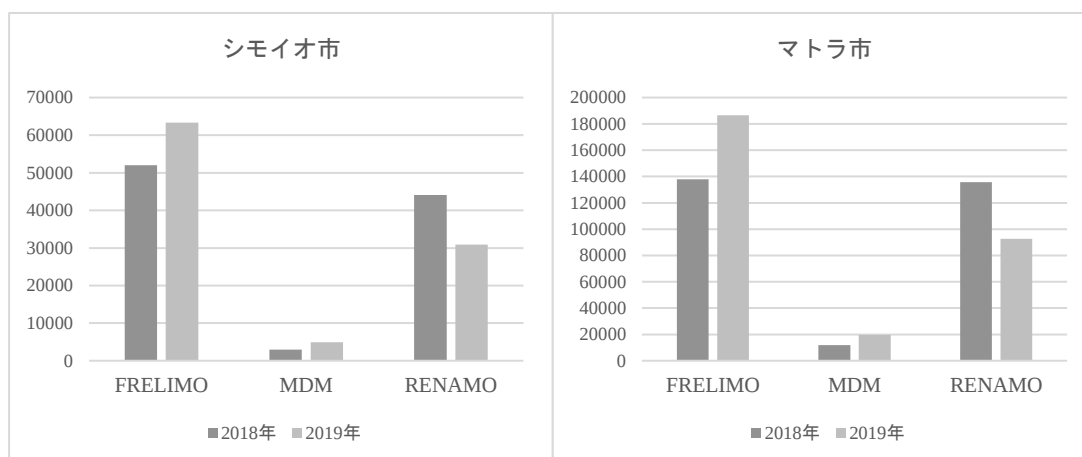


図3 2018年選挙と2019年選挙の各州都における各党の得票

都市部では全体的にフレリモが得票を伸ばして、レナモが票を失っている。特に、リシंगा市、ペンバ市、ナンプラ市、ベイラ市、シモイオ市、マトラ市では、全体の投票者数がほとんど変わらないなか、レナモ及びベイラ市のみ MDM が失った票分だけフレリモの得票が伸びている。また、ケリマネ市とテテ市ではレナモの票の減少は他市ほどではないが、それ以上にフレリモの得票が伸びている。すなわち、両市ではレナモからフレリモへ流れた層以上に、フレリモへの投票者が新規に増加していることとなる。

以上のように、州都でレナモ票がフレリモに流れていながら、図1で見たように南部以外ではレナモ、MDMともに得票が大きく変わっていないことから、州都以外では全体的に有効投票数が増えていること、レナモとMDMも得票を伸ばしていること、そして全州で勝利しているフレリモが野党以上にフレリモが得票を伸ばしていることになる。これを裏付けるデータとして、付録2を見ると52特別区中24区で有権者登録数が3倍以上に増加しており、特にザンベジア州ではケリマネ市を除く全区、ナンプラ州でも前回レナモが勝利したナンプラ市、ナカラポルト市、モザンビーク島市以外で3倍以上に増加している。レナモは全州都で票を減らしている一方、32区で前回よりも票を増やしている。しかし、それ以上にフレリモが得票を伸ばし、2018年選挙でレナモが勝利した8つの特別区ではナカラポルト市とモザンビーク島市を除いて、また、接戦の末フレリモが「疑惑の勝利」を納めた9の特別区においては全区で1万票以上の差をつけて勝利している。

このように州都とそれ以外で大きな違いがある中、図2で示したように結果的に全国と52特別区のバランスが均質になっていることについて、作為的に帳尻を合わせたような感もあるが、これは筆者の憶測に過ぎない。

6.2. 2018 年に僅差であった市町の比較

続いて、2018 年選挙で僅差であった 9 選挙区についての票の増減を調べた。

表 6 2018 年にフレリモが僅差で勝利した選挙区の 2019 年の詳細

	フレリモ	レナモ	有権者登録数	有権者登録倍数
モンテプエス	16,289	2,943	88,078	2.5
モナポ	25,077	12,593	143,022	4.1
リバウエ	23,161	4,521	92,443	4.7
アルトモロクエ	33,248	1,290	138,725	5.5
マガンジャダコスタ	14,201	6,946	81,503	5.3
モクバ	19,349	5,100	142,782	3.1
マロメウ	35,860	-1,236	47,540	2.7
モアティーゼ	26,191	15,793	121,137	4.3
マトラ	48,666	-43,026	74,444	1.1

2018 年にレナモが勝利宣言をしたアルトモロクエ町では選挙前の登録有権者数が 5.5 倍にまで増加し、結果としてフレリモが 3 万票以上を積み上げて 2 倍近い差で勝利している。モアティーゼ町も同様に登録有権者数が 4.3 倍増し、フレリモが 2 万 6 千票を積み上げて 1 万票差以上をつけている。このようにマトラ市以外では 2018 年比で有権者登録が 2.5 倍から 5.5 倍に増え、棄権が圧倒的に多いもののフレリモに多くの投票をしている。一方で、レナモにも増加分の約 5%から 10%が実質的に投票しているが、それでも 2018 年に疑惑が持ち上がるほどレナモの支持が厚かった 9 選挙区において、1 年間で圧倒的な差がついてしまったことには不自然な印象を受ける。

7. まとめ

本報告書のここまでの内容を以下の通りまとめる。まず、2014 年までは大統領選挙及び共和国議会選挙では常にフレリモが優勢となってきたが、共和国議会選挙の州別得票及び全国州議会選挙ではザンベジア州とソファアラ州でレナモが常に多数派であり、ナンプラ州、マニカ州、ニアッサ州は両党が接戦を演じてきた。また、全国市議会選挙では、2003 年以降 2008 年を除きザンベジア州都ケリマネ市及びナンプラ州都ナンプラ市でレナモ及び MDM (2013 年のみ) が、ベイラ市では 2008 年以降 MDM が勝利している。しかし、2019 年共和国議会選挙及び全国州議会選挙では、前年の全国市議会選挙まで野党が優勢であった州でフレリモが圧勝し、52 特別区のすべてをフレリモが制す完勝を果たした。

2018 年選挙と 2019 年選挙を比較すると、各州都ではほとんど投票者数に変化がないが、非州都では 3 倍から多いところでは 15 倍も投票者数が増加している。各州都では 2018 年のレナモへ

の投票の一部がフレリモに流れ、ナンプラ州やザンベジア州ではこれによりフレリモが勝利している。全体的に見ると、レナモと MDM の得票数は 2018 年とほとんど変化がなく、フレリモのみ大幅に投票を伸ばしている。そのため、州都以外では投票者の増加とともに、レナモや MDM への投票も増加している。しかしながら、2018 年とは一転して、フレリモとレナモが僅差で競り合っている選挙区はナカラポルト市のみとなっており、他の 51 区では圧倒的な差を付けてフレリモが勝利している。また、52 の特別区と全国を比較すると、ほとんど同じ投票傾向を示していることもわかった。

8. 結び

本報告書では 2018 年全国市議会選挙と 2019 年総選挙を構成する全国州議会選挙を、直接比較可能な 52 特別区の得票データを抽出して比較して分析した。推測統計などによる処理は行っていないものの、結果として、統計的な直感からは不自然であるような傾向が浮かび上がった。もちろん、数値は因果関係を示さないため、このデータだけをもって何らかの不正があったと結論づけることはできない。また、2018 年 10 月からの 1 年間には、非開示債務問題の容疑者逮捕、レナモとの和平協定による武装解除・動員解除・社会復帰 (DDR) の実行、北部カーボデルガード州の天然ガス事業の最終投資決定など、ニュシ政権は着実に成果を上げており、これが支持された結果の可能性も十分に考えられる。しかしながら、モザンビークでは毎回のようにフレリモによる選挙不正があると訴えられている一方で、具体的な数字に基づいた分析や調査が行われてきていなかった中で、Rosário & Guambe (2024) などの質的調査を補完するものとして、本稿の調査がモザンビークの民主主義の発展に寄与できることを願いたい。

参考文献

- Baloi, J. A. (2019). "The Vote of Silence: the Problem of Abstention in Municipal Elections in Mozambique". *Budapest International Research and Critics Institute Journal*, Vol.2, No.3, 89-103.
- Carter Center. (2005). *Observação das Eleições de Moçambique 2004*.
- Centro de Integridade Pública. (2014). *Boletim sobre o processo político em Moçambique*.
- Chichava, S. (2010). *Movimento Democrático de Moçambique: uma nova força política na democracia moçambicana? Cadernos IESE n°2*. Instituto de Estudos Sociais e Económicos: Maputo.
- Conselho Constitucional. (2019). *Acórdão n° 25/CC/2019 de 22 de Dezembro*.
- Electoral Institute for Sustainable Democracy in Africa (EISA). (2014). *Relatório da Missão de Observação Eleitoral Moçambique: Eleições Presidenciais, Legislativas e das Assembleias Provinciais 15 de Outubro de*

2014. Auckland Park, South Africa.

Luabo, A. O. L. 2023. “Campanha Eleitoral em Moçambique: A Cobertura Jornalística da STV”. *RILP*2023, 119-138.

Nuvunga, A. 2012. Tendências nas Eleições Municipais de 1998, 2003 e 2008.

Osório, C. & Macuácuá, E. 2014. *Eleições Autárquicas de 2013: Participação e representação de mulheres e homens*. WLSA Moçambique: Maputo.

República de Moçambique. 2018. *Boletim da República*, I Série, Número 115.

Rosário, D. M. & Guambe, E. 2024. “Decentralising Fraud: New Methods of Electoral Manipulation during the 2019 General Elections in Mozambique”. *Journal of Southern African Studies*, 49:4, 677-695.

船田クラーセンさやか. 2007. 『モザンビーク解放闘争史』. 御茶の水書房.

水谷章. 2017. 『モザンビークの誕生: サハラ以南アフリカの実験』. 花伝社.

付録1 2018年選挙と2019年選挙における各党の53特別区の得票数

州	特別区	2018					2019		
		フレリ モ	MDM	レナモ	フレリモ - レナモ	フレリモ	MDM	レナモ	フレリモ - レナモ
Niassa	Lichinga	28,668	1,591	24,949	3,719	36,994	1,486	15,324	21,670
	Cuamba	9,586	1,584	12,952	-3,366	22,634	1,407	14,967	7,667
	Metangula	5,028	117	2,643	2,385	n/a	n/a	n/a	n/a
	Mandimba	4,318	267	2,938	1,380	12,835	679	6,033	6,802
	Marrupa	4,401	627	1,125	3,276	8,825	731	3,018	5,807
Cabo	Pemba	30,380	3,442	21,860	8,520	36,895	2,262	15,075	21,820
Delgado	Mocimboa da Praia	13,019	438	8,814	4,205	27,321	699	9,415	17,906
	Montepuez	13,641	1,162	11,577	2,064	29,930	2,076	14,520	15,410
	Chiurê	6,144	579	9,029	-2,885	31,022	2,166	19,899	11,123
	Mueda	15,142	901	406	14,736	47,916	1,183	976	46,940
Nampula	Nampula	63,187	12,221	116,602	-53,415	122,533	8,500	70,159	52,374
	Angoche	10,612	1,127	13,192	-2,580	49,402	1,722	26,570	22,832
	Ilha de Moçambique	5,942	1,808	7,630	-1,688	9,962	309	6,899	3,063
	Monapo	9,579	618	9,363	216	34,656	2,723	21,956	12,700
Zambézia	Nacala Porto	32,469	2,247	43,810	-11,341	36,440	1,331	35,810	630
	Ribáuè	4,870	852	4,436	434	28,031	1,284	8,957	19,074
	Malema	4,267	825	4,788	-521	23,878	1,160	11,124	12,754
	Quelimane	27,504	3,100	45,093	-17,589	51,689	4,639	39,371	12,318
	Alto Molócuè	8,599	915	8,486	113	41,847	1,999	21,387	20,460
	Gurúè	13,521	11,604	1,291	12,230	34,103	4,858	15,257	18,846
	Milange	8,721	394	6,219	2,502	46,904	2,555	29,068	17,836
	Maganja da Costa	5,732	609	4,541	1,191	19,933	1,714	11,487	8,446
Sofala	Mocuba	16,419	859	14,965	1,454	35,768	2,364	20,065	15,703
	Beira	51,089	79,924	42,896	8,193	79,631	51,728	33,194	46,437
	Dondo	18,431	2,766	6,105	12,326	52,450	3,526	11,240	41,210
	Gorongosa	8,469	857	2,411	6,058	25,509	1,624	10,063	15,446
	Nhamatanda	7,834	676	5,726	2,108	44,984	2,634	17,879	27,105

Manica	Marromeu	8,330	1,533	7,810	520	44,190	2,873	6,574	37,616
	Chimoio	51,989	2,949	44,069	7,920	63,333	4,901	30,902	32,431
	Catandica	11,582	418	6,107	5,475	n/a	n/a	n/a	n/a
	Gondola	9,613	702	6,063	3,550	33,784	1,592	11,473	22,311
	Sussundenga	6,573	1,175	2,408	4,165	28,079	992	8,796	19,283
Tete	Manica	11,488	599	7,105	4,383	40,189	1,509	12,337	27,852
	Tete	41,445	1,895	32,725	8,720	57,362	3,150	24,274	33,088
	Ulongue	6,923	363	4,510	2,413	n/a	n/a	n/a	n/a
	Moatize	9,839	565	9,742	97	36,030	1,998	25,535	10,495
Inhambane	Nhamayabwe	4,403	160	1,817	2,586	n/a	n/a	n/a	n/a
	Inhambane	21,071	1,311	4,121	16,950	20,687	1,411	3,719	16,968
	Massinga	7,153	808	4,363	2,790	26,961	2,207	7,891	19,070
	Maxixe	23,018	2,303	4,984	18,034	25,153	1,905	4,944	20,209
	Quissico	3,922	393	1,624	2,298	n/a	n/a	n/a	n/a
Gaza	Vilankulo	11,118	651	4,653	6,465	27,845	1,770	6,338	21,507
	Xai-Xai	40,386	3,202	6,145	34,241	47,986	3,536	6,643	41,343
	Macia	11,828	862	1,113	10,715	n/a	n/a	n/a	n/a
	Praia de Bilene	3,883	438	193	3,690	58,808	1,710	1,962	56,846
Maputo	Chibuto	21,155	1,069	1,145	20,010	106,180	1,914	1,918	104,262
	Chókwè	22,368	1,837	1,360	21,008	151,662	3,535	3,063	148,599
	Mandlakazi	9,802	402	791	9,011	53,149	1,032	1,735	51,414
	Matola	137,875	11,799	135,678	2,197	186,541	19,624	92,652	93,889
	Boane	23,072	1,581	6,648	16,424	39,300	3,559	14,776	24,524
Província	Manhiça	14,634	1,747	4,937	8,260	47,751	2,387	3,892	43,859
	Namaacha	4,863	221	599	4,003	13,629	535	1,629	12,000
Cidade de Maputo	Cidade de Maputo	214,103	19,269	136,947	77,156	-	-	-	-

付録2 2018年選挙と2019年全国州議会選挙におけるフレリモ、レナモの得票及び有権者数の増減

州	特別区	フレリモ	レナモ	有権者登録数	有権者登録倍数
Niassa	Lichinga	8,326	-9,625	31,951	1.3
	Cuamba	13,048	2,015	66,058	2.1
	Metangula	n/a	n/a	n/a	n/a
	Mandimba	8,517	3,095	37,546	3.7
	Marrupa	4,424	1,893	22,728	2.7
Cabo Delgado	Pemba	6,515	-6,785	14,201	1.1
	Mocímboa da Praia	14,302	601	44,793	2.3
	Montepuez	16,289	2,943	88,078	2.5
	Chiurê	24,878	10,870	121,737	4.9
	Mueda	32,774	570	66,435	3.2
Nampula	Nampula	59,346	-46,443	73,923	1.2
	Angoche	38,790	13,378	122,496	3.5
	Ilha de Moçambique	4,020	-731	3,983	1.1
	Monapo	25,077	12,593	143,022	4.1
	Nacala Porto	3,971	-8,000	7,034	1.0
	Ribáuè	23,161	4,521	92,443	4.7
	Malema	19,611	6,336	82,101	4.0
	Quelimane	24,185	-5,722	74,000	1.6
Zambézia	Alto Molócuè	33,248	12,901	138,725	5.5
	Gurúè	20,582	13,966	141,441	3.9

	Milange	38,183	22,849	188,540	8.4
	Maganja da Costa	14,201	6,946	81,503	5.3
	Mocuba	19,349	5,100	142,782	3.1
Sofala	Beira	28,542	-9,702	50,397	1.2
	Dondo	34,019	5,135	55,911	2.3
	Gorongosa	17,040	7,652	72,603	5.1
	Nhamatanda	37,150	12,153	111,877	6.0
	Marromeu	35,860	-1,236	47,540	2.7
Manica	Chimoio	11,344	-13,167	28,958	1.2
	Catandica	n/a	n/a	n/a	n/a
	Gondola	24,171	5,410	68,993	3.5
	Sussundenga	21,506	6,388	65,293	5.1
	Manica	28,701	5,232	70,352	3.3
Tete	Tete	15,917	-8,451	33,221	1.2
	Ulongue	n/a	n/a	n/a	n/a
	Moatize	26,191	15,793	121,137	4.3
	Nhamayabwe	-4,403	-1,817	-9,280	
Inhambane	Inhambane	-384	-402	5,687	1.1
	Massinga	19,808	3,528	81,342	4.6
	Maxixe	2,135	-40	8,369	1.1
	Quissico	n/a	n/a	n/a	n/a
	Vilankulo	16,727	1,685	48,779	2.7
Gaza	Xai-Xai	7,600	498	54,762	1.6
	Macia	n/a	n/a	n/a	n/a
	Praia de Bilene	54,925	1,769	117,512	15.3
	Chibuto	85,025	773	140,944	4.5
	Chókwè	129,294	1,703	191,477	5.1
	Mandlakazi	43,347	944	110,402	6.2
Maputo	Matola	48,666	-43,026	74,444	1.1
Província	Boane	16,228	8,128	64,031	2.2
	Manhiça	33,117	-1,045	68,462	2.8
	Namaacha	8,766	1,030	18,895	3.0